

USD / JPY 米ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年8月の相場展望

発行日

August 4, 2026

対象期間

7月実績 / 8月展望

通貨ペア

USD / JPY

発行頻度

Monthly

7月末レート（終値）

157.578

▼ -3.08%（7月月間騰落）

7月高値

163.981

7月安値

157.569

FED金利

3.50-3.75%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

7月は162.59円からスタートし月央に163.98円まで上昇したが、月末にかけて反落し157.58円で引け、月間-3.08%の円高となった

FOMCは7月29日に9対3で3.50～3.75%を据え置き（5会合連続）。3名の地区連銀総裁が利上げを主張して反対し、意見が分かれた

日銀は7月30～31日に政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.00%で据え置き（賛成多数、8対1）。植田総裁は会見に復帰し、物価上振れリスクに触れつつ先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

月末にかけて160円台前半から急速に円高が進んだ。財務省は8月3日、米国東部時間7月31日に米財務省と協調して円買い介入を実施したと公表しており、月末の円高にはこの協調介入が影響したとみられる

8月 基本シナリオ レンジ

152 - 160円

Fed・日銀とも次回会合は9月。8月は経済指標が焦点（確率50%）

日米政策金利差

最大2.75pp

政策金利上限ベース。6月の日銀利上げ後、前月と同水準

始値
162.588
7月1日

高値
163.981
月中最高値

安値
157.569
月中最安値

月間騰落
-3.08%
-5.010円

7月の相場動向

7月のドル円は**162.59円**でスタートし、**月央にかけて163.98円まで上昇**した。月前半は日米金利差を背景にドルが底堅く推移した。しかし月末にかけて流れが変わり、**157.57円まで反落**して引けた。月間騰落は-3.08%となり、当社定点観測対象の主要5通貨ペアの中で円絡みでは最も大きな下落率となった。

月末の急速な円高の主因となったとみられるのが、為替介入である。**財務省は8月3日、米国東部時間7月31日（金）に米財務省と協調して円買い介入を実施したと公表した**。2025年9月の「日米財務大臣共同声明」に基づく協調介入で、円の過度な変動・無秩序な動きに対処したものとされる。同省は更なる協調介入も辞さない考えを示している。あわせて、**7月29日のFOMC（9対3で据え置き）と7月31日の日銀会合（1.00%で据え置き）**を通過し、植田総裁が先行きの利上げ路線を維持する姿勢を示したことも、円が買われやすい地合いにつながったとみられる。

主要イベントの影響

us FOMC 7月29日（日本時間7/30早朝）

9対3で3.50～3.75%を据え置き（5会合連続）

Hammack・Kashkari・Logan各地区連銀総裁が0.25%利上げを主張し反対

Warsh議長はインフレを「選択の問題」と表現。据え置きの声明は簡素化された

JP 日銀 7月30～31日 据え置き

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.00%で据え置き、賛成多数（8対1）で決定

高田審議委員は追加利上げを求めて反対。植田総裁は会見に復帰した

植田総裁は物価上振れリスクに言及し、先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

7月の総括

7月は、Fed・日銀がともに金利を据え置く中で、月末にかけて円高が進んだ。この急速な円高の主因となったとみられるのが、**7月31日に実施された日米協調による円買い介入**（財務省が8月3日に公表）である。日米金利差は最大2.75ppと引き続きドルに有利な水準にあるものの、当局の介入と、植田総裁が先行きの利上げ路線を維持する姿勢を示したことなどが円買い材料として意識されたとみられる。8月はFed・日銀とも会合がなく、米経済指標や要人発言、追加介入の有無が方向性を左右しやすい。

8月の注目ポイント

8月は**Fed・日銀ともに金融政策会合が予定されていない**（いずれも次回は9月）。このため、米国のインフレ・雇用関連指標や要人発言が相場を動かす主な材料になりやすいとみられる。米インフレ指標が上振れすればFedの追加引き締め観測を通じてドルが下支えされる可能性がある一方、160円に近づく局面では、7月31日の協調介入を踏まえ、引き続き追加介入への警戒が意識されやすい。日米金利差の大きさから下値も限定的との見方があり、当面は方向感を探る展開が想定される。

シナリオ別レンジ予測

 強気	30%	米指標が上振れしFedの追加引き締め観測が強まる	158 – 162円
 基本	50%	Fed・日銀とも会合がなく、指標にらみのレンジ推移	152 – 160円
 弱気	25%	円買い観測の再燃や日銀の早期利上げ観測でドル下落	149 – 155円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
米CPI・雇用統計の上振れ	中	円安	インフレ指標が上振れすればFedの9月利上げ観測が強まり、ドルが下支えされる可能性
政府・日銀の追加の円買い介入	中	円高	財務省は7月31日の協調介入後も追加介入を辞さない姿勢。160円接近局面では警戒が強まりやすく、ドルロングの巻き戻しにつながる可能性
日銀の早期追加利上げ観測（9月）	中	円高	9月の追加利上げ観測が強まれば、金利差縮小を意識した円買いが入りやすい
Fed内の利上げ主張の拡大	中	円安	7月会合で3名が利上げを主張。支持が広がれば米金利上昇を通じてドル高圧力

8月の見通し

基本シナリオは**152～160円のレンジ**（確率50%）とみている。日米金利差は最大2.75ppと引き続きドルに有利な水準にあり、下値は限定的との見方がある一方、160円に近づく局面では介入への警戒が上値を抑えやすい。8月はFed・日銀とも会合がなく、**米インフレ・雇用指標や要人発言**が方向性を左右する主な材料となりやすい。9月の両中銀会合を控え、方向感を探る展開が想定される。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。7月会合では9対3で据え置き。次回は9/15-16。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月に1.00%へ利上げ後、7月は据え置き。植田総裁は利上げ路線を維持する考えを示した。次回は9/17-18。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する**基準金利**。政策金利上限ベースの日米金利差はFed上限3.75%－BOJ1.00%＝最大2.75pp。

ドットプロット

FOMCメンバーが将来の**政策金利見通し**を点で示したグラフ。次回の公表は9月会合が予定されている。

為替介入

政府・中央銀行が**急激な為替変動を抑えるために外為市場で売買を行うこと**。日本では財務省が権限を持ち日銀が実務を担う。7月31日には日米協調による円買い介入が実施された（財務省が8月3日公表）。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し**金利差収益を狙う取引**。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。